

日本語母語話者の韓国語作文に見られる「-ko issta」の使用について

金 智英

神戸松蔭女子学院大学文学部

Author's E-mail Address: chiyon0304@shoin.ac.jp

The Use of -ko iss-ta in Korean Language Compositions by Native Japanese Speakers

Kim Jee-young

Faculty of Letters, Kobe Shoin Women's University

Abstract

韓国語の -ko issta は日本語のテイル形と対応する形式の一つであるが、その用法はテイル形に比べてかなり限定的である。しかし、日本語を母語とする韓国語学習者の発話や作文には、日韓のアスペクト形式とその運用におけるずれが原因であると思われる誤用がみられる。具体的には、-e issta が使用される箇所に -ko issta を用いた場合、-e issta も -ko issta も使用しない文脈に -ko issta が使用された場合、そして韓国語には存在しない表現に -ko issta が使用された場合である。特に、主に主体変化動詞に -e issta が接続されて結果継続や恒常の特徴を表す文脈や、状態動詞や状態を表す慣用表現などの場合、動詞や文脈によって非過去形に訂正されるべき場合と過去形に訂正されるべき場合、また -ko issta の使用が可能となる場合もあるので、韓国語学習において理解や解説が難解な項目といえる。

なお、今回の分析を通して、韓国語母語話者の使用傾向、韓国語のテキストの用例、韓国語学習者の産出する表現などの収集と、韓国語の学習内容への反映方法の検討などの課題が得られた。

This paper focuses on the use of the Korean aspect form -ko iss-ta by native Japanese speakers. Korean-language speech and written texts by Japanese learners of Korean are characterized by the frequent misuse of -ko iss-ta, apparently through overgeneralization of the -teiru form in Japanese. -ko iss-ta, -e iss-ta, and the past tense in Korean correspond to the -teiru form in Japanese. Misuses by learners of Korean include, first, the use of -ko iss-ta where -e iss-ta should be used, followed by

the use of one of these forms when the past or present tense should be used, and finally, the direct translation of Japanese idiomatic expressions that do not exist in Korean.

Since such misuses, which are difficult to notice, cannot be eliminated through the operative knowledge of the forms alone, a clear understanding of the Japanese language, which is the first language of the learners concerned, is required. In addition, it is clear that it is necessary to reexamine how actual usage by Korean native speakers can be applied in Korean language education.

キーワード：テイル形、誤用分析、アスペクト形式、結果継続

Key Words: "te iru" form, error analysis, aspect forms, resultative

1. はじめに

本稿では、韓国語を学習する日本語母語話者（以降、韓国語学習者）による韓国語の不自然な使用のなかで、特に「-고 있다 [-ko issta]」¹⁾形（以降、-ko issta とする）の誤用について、関連するいくつかの形式とともに分析していく。

韓国語の -ko issta は動作の継続を表す語尾で、日本語のテイル形と対応する形式の一つである。但し、-ko issta が表す文脈的意味はテイル形に比べてかなり限定的であり、例えば、次の例（1）や例（2）の下線部のような文脈に使用されるテイル形をそのまま韓国語の -ko issta で表すことはできない。

- (1) その本なら 3年前に読んでいる。（筆者の作例）
- (2) 姉は東京に行っています。（筆者の作例）

このような、過去の経験や結果状態といったテイル形の用法は、他の言語を母語とする日本語学習者には学習が難解な文法項目の一つである。第二言語としての日本語学習におけるテイル形の習得に関する先行研究の傾向については、山口（2013）、菅谷（2002）などが詳しい。韓国語母語話者の場合においても学習者の誤用が多く、例えば、李（2019）の研究によると、日本語を学習する韓国語母語話者（以降、日本語学習者）は、結果状態のいくつかの局面においてタ形とテイル形の使い分けを行なっているが、その基準が日本語母語話者のそれとは異なっている。具体的には、ある特定の状態をその変化が起きた時点を明確な形で目撃していない場合、日本語母語話者は一般的にテイル形を使用するが、韓国語を母語とする日本語学習者はタ系を使用する傾向がみられる。その背景には、日本語母語話者と韓国語母語話者の間の事象の捉え方の違いが存在している。日韓対照の観点から両言語間のアスペクト体系を分析している先行研究からは、特に結果状態の認識に大きな違いがあることがすでに分かっており（生越 1995）、韓国語を母語とする日本語学習者のアスペクト形式の運用は、このような母語からの影響が関係していると推察される。

一方で、韓国語学習者による韓国語の発話や作文においても日韓のアスペクト形式とその

運用におけるずれが原因であると思われる誤用がみられる。具体的には、テイル形の過剰汎化とも見られる -ko issta や -e issta の誤用などが度々見られるが、例えば、次の例 (3) と例 (4) のような使用である²⁾。

(3) 한국 친구는 … 당당하고 있는 (→ - 한) [-hako issnun]³⁾ → [-han] 것 같아요.

韓国(人)の友達は…堂々としていると思います。(白・山田・宋・印 2016, p87)

(4) 작년 에 한국어 수업을 들어 있었는데 (→ 들었는데) [tule issessnuntey] → [tulesnuntey]…

昨年、韓国語の授業に出ていましたが… (印 2016, p16)

テイル形と -ko issta また -e issta が形式的に対応する類似した文法項目であるために、なおさらそれぞれの事象の捉え方における違いに気づきにくく、負の転移が起きやすい条件になっていると思われる。日本語のテイル形の用法に対する気づきを促すためには、韓国語学習の際、母語への内省が伴われることが必要である。本稿では、テイル形と韓国語のアスペクト形式との対応関係を大まかに確認し、韓国語学習者の作文例に見られる -ko issta や -e issta の誤用例をいくつかのタイプに整理していく。そこから、日本語母語話者の韓国語学習において、当該文法項目に関連する誤用の傾向を把握し、後続研究に必要な課題を見つけるための足掛かりとする。

2. テイル形に対応する韓国語の形式と基本的な運用

2.1 テイル形に対応する韓国語の形式

-ko issta は、韓国語学習の初級レベルで導入されるアスペクト形式である。主に動作の進行、または継続を表すもので、日本語のテイル形に当たる。形態的にも、テ形に相当する連結語尾「-고 [-ko]」に存在詞「-있다 [-issta]」が接続する仕組みで、日本語と類似している。ただ、-ko issta はテイル形のアスペクト的な用法にそのまま対応せず、基本的に<動作の継続>を表し、テイル形に比べればその適用範囲はかなり限られる。

韓国語のアスペクト形式には他に「-어 있다 [-e issta]」(以降、-e issta とする)⁴⁾があり、「動作や変化が終了した後の局面を表す“結果相”を示す」(浜之上 et al., 2021, p22) とされる。例えば、前掲の例 (2) を韓国語に表す際にこの -e issta が用いられる。

一方、前掲の例 (1) のような場合、-ko issta または -e issta などのアスペクト形式は用いず、過去を表す「-었다 [-essta]」⁵⁾ (以降、-essta とする) で表すことになる。その他、非過去の「-는다 [-nunta]」⁶⁾ (以降、-nunta とする) も現在の状態や進行中の事柄に用いられるが、この場合、積極的に特定の局面を捉えるアスペクト的な用法とは異なり、その局面を「明言しない」(浜之上 et al., 2021, p24) 形式といえる。

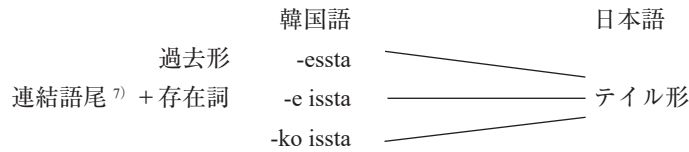


図 1：日韓アスペクト形式の対応関係

このように、日本語のテイル形には韓国語の -ko issta、-e issta、過去形が対応しており、日本語母語話者の韓国語学習において難解な文法項目の一つである。なお、-ko issta と同様、連結語尾と存在詞の組み合わせといった構成からなる -e issta については、その導入時期が中級レベルになることが多く、学習過程に組み込まれないこともあるので、使用件数も全体的に少ない傾向にある。これについては、大学などの高等教育機関で行われている韓国語教育において、当該文法項目がどの段階で学習されるか、あるいは学習されないか、実態調査が必要であり、さらに調査を進める予定である。

2.2 日韓のアスペクト形式とその運用上の相違点

テイル形の意味用法については、『日本語文法事典』では基本的なアスペクトの意味を「継続」とし、さらに<動作継続><結果継続>に区分している。そのほかの派生的なアスペクトの意味として<反復習慣><動作パーフェクト><恒常的特徴>を設けている。同事典にあげられている例文からそれぞれの文脈を確認しておく。

- (5) 太郎が本を読んでいる。<動作継続>
- (6) 太郎は中国に行っている。<結果継続>
- (7) 太郎は時々本を読んでいる。<反復習慣>
- (8) 去年も中国に行っている。<動作パーフェクト>
- (9) 街の中に川が流れている。<恒常的特徴>

一方、韓国語の場合、それぞれの意味用法が韓国語とどのように対応するか、高 (2019) や金 (2013) を参照して表 1 にまとめた。

表 1：テイル形に対応する韓国語の形式

韓国語の形式 テイル形の意味	連結語尾 + 存在詞		現在形	過去形
	-ko issta	-e issta	-nunta	-essta
動作継続	○			
反復習慣	○			
結果継続	△	○	△	○
動作パーフェクト ⁷⁾				○
恒常的特徴	○	○	○	○

○：基本対応 △：特定の動詞に限られる場合や文脈における解釈による場合

動作継続や反復習慣の場合は基本的に -ko issta が使用されるが、現在形「-nunta ~ (す)る」で表される場合もある。ただ、-nunta については、前述のように積極的なアスペクトの局面を捉えているわけではなく、ほとんどの文脈において -ko issta と置き換え可能なことから、<動作継続><反復習慣>と対応する形式として設定しないでおく。

まず、結果継続の場合、使用動詞や文脈によって使用される形式が変わってくる。結果継続の基本的な文脈は、主体変化の自動詞に -e issta が用いられて結果継続を表す場合である。ただ、「変化の経緯がおおよそ把握でき、その状況を変化が完結した状態だと感じたとき、つまり、その状況のある出来事の結果だと把握したとき」(生越直樹 1997, p149)には、過去形である -essta が使用される。

- (10) (道に誰かの財布が落ちているのを見て)
지갑이 떨어져 있다.[ttelecye issta⁸⁾] (生越 1997, p145)
財布が落ちている。
- (11) (相手の服のボタンがとれているのを見つけて、相手に)
단추 떨어졌다.[ttelecyessta] (生越 1997, p139)
ボタンがとれている。

一方、他動詞の中で、意味的に主体変化の特徴を持つ動詞や着脱動詞の場合は -ko issta で結果継続を表すことがある。

- (12) 안나는 빨간 옷을 입고 있다.[ipko issta] (高 2019, p169)
アンナは赤い服を着ている。

さらに、一部の状態動詞においては、-essta を用いて結果継続を表すものがあるが、次の例
(13) の他に、「맞다 (合う)」「답다 (似ている)」「생기다 ((~の顔立ち)をしている)」な

どがある (浜之上 et al., 2021)。

(13) (初対面の相手に)

결혼하셨어요? [kyelhonhasyesseyo] (生越 1997, p148)

結婚していますか。

パーフェクトは、日本語においては「過去の出来事の影響が現在まで残っていることを表す」(庵 2018, p9)際に使用されるテイル形の用法で、経験などを表す文脈であることが多い。ただ、このような用法を韓国語の -ko issta や -e issta など基本的には持っておらず、過去の出来事なので -essta で表すことになる。このような場合、韓国語においては過去に完了した事象として捉えており、テイル形で表される「その出来事の結果が継続する状態」を積極的に捉えているわけではない。テイル形のアスペクト的意味合いに韓国語の形式がそのまま対応するとは限らないという点に注意する必要がある。

そして、恒常的特徴の場合、文脈や動詞の属性によって -ko issta、-e issta、-nunta、-essta の全てが使用可能である。

以上、日本語のテイル形のアスペクト的意味とそれに対応する韓国語の形式について、その相違点を確認した。次節では、韓国語学習者の作文データを用いて、誤用が現れる文脈について詳しく分析していく。

3. 韓国語学習者の作文に見られるアスペクト的使用

3.1 作文資料について

韓国語学習者の作文資料から、-ko issta や -e issta の使用に不自然さが見られるものを集めた。本稿で分析する作文資料は、大学で韓国語を2年以上(総学習時間 13,000 分以上)行っている日本語母語話者によるものである。138本の作文資料から得られた -ko issta や -e issta の誤用を中心に分析を行っていく。-ko issta と -e issta の形式を用いた結果の誤用例だけを収集しており、-e issta やアスペクト形式を使用しないことによる誤用は、今回の分析対象から除外している。作文のテーマは自由で、過去の経験、近況報告、関心事の紹介などが混在しており、使用すべき文法項目の設定はされていない。韓国語学習者のアスペクト形式の学習歴は、<動作継続>と<結果継続>を表すアスペクト形式として -ko issta を初級(1年次)の段階で学習している⁹⁾。-e issta については、使用しているテキストに組み入れられていないため、明示的な形で学習していない場合が多く、一部に見られる -e issta の使用例は教員による教授内容や個人的学習によるものと推察される。

作文資料から得られた誤用には、-e issta を使用すべき箇所に -ko issta を使用した場合、過去形や現在形で表されるべき箇所にアスペクト形式(ほとんどが -ko issta)を使用した場合、韓国語にはない慣用的表現をそのまま直訳したと思われる場合が含まれる。

3.2 作文資料に見られる誤用の類型

3.2.1 -e issta への訂正を原則とする場合

結果状態や恒常的特徴を表すものと判断される文脈において、-ko issta を使用している場合である。表1で確認したように、結果状態を表す文脈でも、着脱動詞は -ko issta を使用できるが、それに該当しない場合であり、33例が見つかった。基本的には -e issta の使用が相応しい場合であるが、その許容度において少し違った側面も見られる。そのため、収集された例から、筆者の判断を基準に -ko issta の使用が認められない場合と、-ko issta を中心として過去形や現在形の使用も可能と思われる場合に分けて、その傾向を確認していくことにする。

3.2.1.1 -ko issta の使用が認められない場合

-e issta が使用されるべき箇所に -ko issta を使用しているもので、いずれも〈結果継続〉の文脈である(24例)。括弧の中に訂正を施した語形を併記して次に示す。

- (14) 동대문은 많은 가게가 모이고 있어요 (→모여 있어요). [moiko isseyo] → [moye isseyo]
東大門は多くの店が集まっています。
- (15) 지금 군대에 가고 있다 (→가 있다). [kako issta] → [ka issta]
今軍隊に行っている。
- (16) 스트레스가 많이 쌓이고 있었다 (→쌓여 있었다). [ssahiko issessta] → [ssahye issessta]
ストレスが沢山溜まっていた。

それぞれ「店が集まっている」「軍隊に行っている」「ストレスが溜まっている」結果の状態に言及しているもので、-e issta の使用が必要なところに表す -ko issta を適用した誤用である。そもそも当該アスペクトの意味と形式 -e issta の関係を明確に学習していない可能性があるため、誤用の原因は適用の失敗というより学習不足といえる。ここで、上掲例と同様の文脈に使用されている動詞を全て取り上げておく。

포함되다 (含まれる) 그려지다 (描かれる) 수장되다 (収蔵される) 고려되다 (考慮される)
이루어지다 (なされる) 수록되다 (収録される) 정해지다 (決まる) 익숙해지다 (慣れる)
쇠약해지다 (衰える) 황폐하다 (荒廃する) 되다 (なる) 들다 (入る) 빠지다 (ハマる)
쌓이다 (積もる) 둘러싸이다 (囲まれる) 남다 (残る) 모이다 (集まる) 나타나다 (現れる)
앉다 (座る) 서다 (立つ) 가다 (行く) 들어가다 (入る) 지나다 (過ぎる) 유학가다 (留学する)

学習者の作文から収集した使用例からは、「名詞+되다 (-なる)」と「動詞+지다 (-くなる)」の構成からなる自動詞が多い傾向にあるが、これらはいずれも主体の変化を表す自動詞である。その他、移動動詞がいくつか見られているが、移動動詞の場合、日本語においては例えば「行っている」は移動後の結果状態を表す。移動中の状態を表すとなると、「向かっている」

という表現がふさわしい(庵 2018)。一方で、韓国語では -ko issta を使用した「가고 있다」で移動という動作の進行状態を、-e issta を使用した「가 있다」で動作が終了した後の状態を表すため、日本語母語話者が韓国語を学習する際には注意が必要である。

一方、上記の誤用例の中には、-e issta だけでなく、アスペクト形式を使用しなくても文脈的意味が変わらないものもある。例えば、次のような文脈がそれに該当する。

(17) 제주도는 사방이 바다로 둘러싸이고 있으므로 (→싸여 있으므로 / 싸였으므로) …

[ssaiko issumulo] → [ssaye issumulo]/[ssayessumulo]

濟州島は四方が海に囲まれているため…

地理的特徴、すなわち恒常的特性を表す文脈であるが、-e issta といった結果状態の形式を用いて「둘러싸여 있다 [twullessaye issta]」に訂正することが一般的な使用であると思われるが、それに加えて、アスペクト的に無標な過去形「둘러싸였다 [twullessayessta]」にしても非文にはならない。ただ、「延世 20 世紀韓国語コーパス」の「原始コーパス (タグなしのテキストコーパス)」を用いて検索した結果からは、-e issta が一般的な使用であるように見られる。他にも、文脈の解釈によってはテイル形に対応する形での -e issta と過去形の両方が使用可能と思われる例がいくつか存在する。韓国語母語話者の使用傾向やその許容度を把握したうえで、韓国語学習者の産出する文章の特徴などと併せてさらに分析する必要がある。

3.2.1.2 -ko issta も使用可能な場合

前節で述べているように、結果継続や恒常的特徴を表す -ko issta の使用例の多くは、基本的には -e issta へ訂正することが適切であるが、中には -ko issta を用いることも可能と思われる使用例がある (8 例)。

(18) 석굴암은 동쪽에 위치하고 있기 [wichihako isski] 때문에, …

石窟庵は東に位置しているため、…

(19) SNS 로 분위기가 좋은 카페가 게재되고 있다. [keycaytoyko issta]

SNS に雰囲気の良いカフェが掲載されている。

例 (18) や例 (19) の下線部は、それぞれ「位置している」という恒常的特徴、「掲載されている」という結果継続の状態を意味する。前節で述べている通り、韓国語において結果継続のアスペクトの意味を表す際の形式は自動詞 + -e issta の組み合わせが基本であり、-ko issta の使用は一部の着脱動詞に限られる。従って、上掲の例 (18)、(19) は誤用であり、それぞれ「위치해 있기 [wichihaya isski] 때문에」「게재되어 있다 [keycaytoye issta]」のように、-e issta に訂正されるべきであろう。

一方で、韓国語母語話者の使用例からは、上記の例 (18)、(19) と同一動詞において -ko issta と -e issta の両方が用いられている場合がある。次に示すのは、学習者の作文例から取り

出した動詞（8例）にも、このような使用形式におけるゆれが見られる。

관련되다（関連される（する）） 등록되다（登録される） 표현되다（表現される）
위치하다（位置する） 게재되다（掲載される） 정착하다（定着する）

すべて、結果状態の文脈において -ko issta に接続した形式で用いられているが、いずれも「-하다（する）」「-되다（される）」などといった構造を持つ主体変化の自動詞であり、文法的ルールに従えば -e issta へ訂正される対象である。これらの動詞における韓国語母語話者の使用を確認するため、「延世 20 世紀韓国語コーパス」の「原始コーパス」を用いて検索を行なった。「連語／原始／2 語節」の条件で「어 -e + 있다 issta」と「-고 ko + 있다 issta」をそれぞれ検索した結果、次の表 2 のような傾向が見られた。

表 2: 「-하다（-する）」「-되다（-される）」動詞に接続するアスペクト形式

基本形	テイル形	-e issta	-ko issta
관련되다（関連される（する））	関連している	287	14
등록되다（登録される）	登録されている	8	1
게재되다（掲載される）	掲載されている	14	5
표현되다（表現される）	表現されている	152	114
정착하다（定着する）	定着している	4	8
위치하다（位置する）	位置している	101	145

用例数に偏りがあるので正確な実態として捉えることは難しいが、全ての動詞において結果継続や恒常的特性を表す文脈において -ko issta の使用が確認できる。さらに、「표현되다（表現される）」「정착하다（定着する）」「위치하다（位置する）」に至っては、「-ko issta」の使用がより多い結果となっている。例えば、次の例（20）や例（21）はいずれも「延世 20 世紀韓国語コーパス」から前述の条件で検索された用例であるが、「위치하고 있다 wicjihako issta」と「위치해 있다 wicjihay issta」がともに「位置している」を表す形式として用いられていることが分かる。

(20) 제주도는 위도상으로…가장 남쪽에 위치하고 있고, …[wicjihako iss-ko]

济州島は…我が国の最も南に位置しており、…

(21) 우리 나라는 태평양의 서쪽에 위치해 있는 것을, …[wicjihay issnun]

我が国は太平洋の西側に位置していることを、…

このように、「위치하다（位置する）」の場合は -ko issta や -e issta のいずれを使用してもほぼ同質の文脈的意味が保たれる。そして、韓国語母語話者の使用において -ko issta と -e issta

の使用状況に偏りがあるものの、他の動詞においても二つの形式が同様の文脈に使用される傾向が見られる。これについては、「漢字語+する(される)」の構造を持つ主体変化の自動詞について、韓国語母語話者の使用実態からアスペクト形式とその意味を再確認し、韓国語教育の場においてどのように適用できるか、あるいは適用する必要があるか否かを含めて議論を深める余地があると思われる。それに加え、本節で取り上げた学習者の使用例(8例)は主観的判断によって選抜されているので、母語話者の使用実態や正誤判断のゆれを調査したうえで再度議論していきたい。

3.2.2 アスペクト形式を使用しない場合

日本語ではテイル形で表される文脈でも、韓国語では -e issta や -ko issta などといったアスペクト形式として実現しない場合がある。しかし、韓国語学習者の作文からは、テイル形からの転移と思われる使用例が多く見られる。本稿の資料から収集された誤用例からも、アスペクト形式が使われない場合に -e issta または -ko issta を適用したものが多数見つかっている(65例)。

3.2.2.1 主体の状態や属性を表す場合

主語の状態や属性を形容する場合、韓国語では -ko issta または -e issta など、アスペクト形式を使用しないのが一般的であるが、韓国語学習者の作文からは、次のような使用が複数見られる。

(22) 나는 모두 마음에 들고 있습니다 (→듭니다). [tulko isssupnita] → [tupnita]

私はすべて気に入っています。

(23) 아이유의 목소리와 어울리고 있을 (→어울릴) [ewulliko issul] → [ewullil] 거라고…

IU の声と似合っていると…

例(22)は、主体が現在「気に入っている」状態、すなわち<結果継続>を表しているが、-e issta も -ko issta も使用できず、非過去形の「마음에 듭니다 (気に入ります)」となる。また、例(23)も、例えば「似合っている」結果継続を表すためには「어울린다 (ewullinta)」と、非過去形で表される。韓国語学習者の使用例からは、他にも「틀리다 (間違える)」「답다 (似ている)」などの動詞に -ko issta を接続したものも見られるが、いずれもアスペクト形式は使用できないため誤用である。これらの動詞は、主体の状態や属性を表すもので、浜之上(浜之上 et al., 2021)にあげられている -ko issta も -e issta も持たない動詞類に属するものと思われる。

겁이 나다 (怖い) 기가 막히다 (なんとも言えない) 맞다 (合う) 생각나다 (思い出される)
답다 (似る) ~생기다 (~ (な) 顔立ちをする)

これらの動詞の中で「겁이 나다 (怖い)」は韓国語では動詞であるが、直訳では意味が伝

わりにくので便宜上、形容詞「怖い」と訳している。先行研究から得られたこのような動詞類と誤用例の動詞から、「맞다 (合う)」「닮다 (似る)」「틀리다 (間違う)」「생기다 (顔立ちをする)」などに注目したい。これらの動詞は日本語の文脈において一般的に「合っている」「似ている」「間違っている」「～な顔立ちをしている」などとテイル形を取って主体の状態や属性を表す。一方で、日本語と同様の文脈を表すためには、韓国語においてはそれぞれ「맞았다 (macassta)」「닮았다 (talmassta)」「틀렸다 (thullyessta)」「생겼다 (sayngkyessta)」などのようにいずれも過去形が用いられる。このような表現の違いは、特定の事象に対する日本語と韓国語の観点が異なるためであるが、本稿の考察の範囲を超えるので、対応形式の違いを確認するだけに留める。

前述の例 (22)「気に入っている」や例 (23)「似合っている」と上記の動詞例で主体の状態を表す場合、韓国語では現在形を用いる場合と過去形を用いる場合があり、注意が必要である。「気に入る」と「마음에 들다 (心に入る)」「思い出される」「생각나다 (考えが出る)」など、当該動詞の日本語と韓国語における表現方法や意味範疇には類似性が見られるものもあるが、一方ではアスペクト形式の使用における相違点もあり、難易度の高い表現である。

その他、次の例 (24) のように日本語と韓国語の間において直訳の意味や意味範疇がほぼ同様の語彙でありながら、品詞は動詞 (日本語) と形容詞 (韓国語) で異なる場合もある。

- (24) 해독작용에 뛰어나고 있어 (→뛰어나),…[ttwienako isse] → [ttwiena]
解毒作用に優れており、…

日本語の動詞「優れる」に当たる韓国語「뛰어나다」は形容詞であり、-e issta や -ko issta などのアスペクト形式は使用できない。日本語と韓国語の意味的な対応を形式の対応にまで過剰汎化した誤用と考えられる。ただ、日本語と韓国語の間で品詞が異なる用言の誤用例はまだ十分な用例が収集できておらず、さらに韓国語テキストの用例や韓国語学習者の作文などから用例の収集を続けていく予定である。

3.2.2.2 過去の経験や完了した出来事を表す場合

次の例 (25) から例 (28) のように、動作の継続を表す以外の、過去に完了した出来事を表す文脈において、韓国語では基本的にはアスペクト形式を使用しない。

- (25) (夏休みに旅行でイタリアに) 실제로 가고 있어요 → (갔어요). [kako isseyo] → [kasseyo]
実際に行っています。
- (26) 서울에 살고 있습니다 (→살았습니까). [salko issupnitaman] → [salassupnita]
(過去に) ソウルに住んでいます。
- (27) 유엔에서도 연설을 하고 있다 (→했다). [hako issta] → [haysta]
国連でも演説をしている。
- (28) 두 대회 모두 입상하고 있습니다 (→입상했습니다). [hako issupnita] → [hayssupnita]

二つの大会とも入賞しています。

このように、過去に完了した出来事について -ko issta や -e issta が使用される誤用例は、本稿の資料の中で -ko issta や -e issta を使用した誤用例の中で最も多い(40例)。「行く」「食べる」「～する」など、早い段階で学習される動詞が多いこともその背景にあると考えられるが、次に取り上げているように、使用されている動詞類を見れば、動作動詞(「되다(なる)」が一例あり)、特に「名詞+する」動詞が多く用いられていることから、使用文脈の影響も考えられる。

가다(行く) 살다(住む) 먹다(食べる) 듣다(聞く) 보다(見る) 울다(泣く)
부르다(歌う) 춤추다(踊る) 나오다(出てくる) 기뻐하다(喜ぶ) 되다(なる)
공연하다(公演する) 회복하다(回復する) 생각하다(考える) 데뷔하다(デビューする)
졸업하다(卒業する) 작사하다(作詞する) 취득하다(取得する) 감동하다(感動する)
승리하다(勝利する) 탈락하다(脱落する) 착용하다(着用する) 우승하다(優勝する)
성형하다(整形する) 입상하다(入賞する) 수상하다(受賞する) 정착하다(定着する)
안무하다(振り付けする)

以上の動詞が使用された文脈は、表1を基準にするといずれも<動作パーフェクト>に分類されるものである。すなわち、過去に終了している出来事についてテイル形を用いて表しているのであり、この場合、韓国語では基本的に過去形の -essta を用いる。このような誤用は -ko issta や -e issta の誤用例の中で最も多いが、過去の出来事に過去形を使用するといった関係性を明確に把握できるので、誤用への訂正や解説を通して注意を促すことはさほど難解ではないように考えられる。

3.2.3 韓国語には存在しない表現

本節では、韓国語には存在しない日本語の慣用表現(29例)について取り上げる。まず、日本語の慣用表現をそのまま韓国語に直訳したものと見られる例を次に示す。

- (29) ** 는 … 회색을 하고 있다 (→ -이다). [-ul hako issta] → [-ita]
** (犬の名前)は灰色をしている (→灰色である)。
- (30) ** 는 … 성격이 바뀌고 있다 (→ 독특하다). [pakkwiko issta] → [tokthukhata]
** (人物)は性格が変わっている (→独特である)。
- (31) 가사능.이.주.생각되고 있어 (→ 깊어서)… [sayngkaktoyko isse] → [kiphese]
歌詞はとても考えられていて (→深くて) …

例(29)は、恒常的特徴を表すテイル形の用法「(特定の色や形状)をしている」をそのまま韓国語に当てはめたものである。同様に例(30)は、動詞「変わる」の意味領域と活用形

態を韓国語に直訳した結果、例(31)も「よく工夫されている」または「深い意味を持つ」などと、文脈を必要とする曖昧な表現をそのまま韓国語に直訳した結果である。アスペクト形式の運用上の問題、すなわち文法上の誤用だけでなく、そもそも表現方法が不自然な場合である。このような誤用は、文法項目や運用方法の学習だけでは気付きにくく、母語(日本語)の表現方法に対する内省が伴われることが望ましい。前述の状態動詞、日韓において動詞と形容詞で品詞が異なる場合と同様に、関連する先行文献、そしてテキストの用例や韓国語学習者の語用からさらに使用例を集め、使用場面や頻度を確認する必要がある。

4. まとめと課題

本稿は、韓国語学習者の資料に見られる誤用に注目して、まずはその傾向を把握すること目的としている。しかし、日韓のアスペクト形式やアスペクト的意味を表す諸形式の対照までにはまだ調査や考察が及んでいないところが多いので、関連する先行研究のリサーチを並行していく予定である。

韓国語学習者の作文資料に見られる -ko issta を中心とした誤用は、大きく三つのパターンに分類できる。具体的には、-e issta が使用される箇所に -ko issta を用いた場合、-e issta も -ko issta も使用しない文脈に -ko issta が使用された場合、そして韓国語には存在しない表現に -ko issta が使用された場合である。

まず、-ko issta や -e issta などを使用しない文脈における誤用は、実は過去の出来事や経験を表す文脈に多く最も多く使用されている。しかし、誤用例数が多い一方で、<過去に完了した出来事>と<過去形>という単純な関係性の理解は、難解な学習項目ではないと思われる。一方、誤用の背景に動詞そのものの属性が関わっている場合や慣用表現など注意が必要な場合、さらに調査・分析が必要な部分が見えた。

-e issta が使用される箇所に -ko issta を用いた誤用は、主に主体変化動詞に -e issta が接続されて結果継続や恒常的特徴を表す文脈に見られる。しかし、当該文脈で韓国語学習者が -ko issta を使用した誤用例の一部、例えば「位置する」「表現される」などの動詞において、韓国語母語話者の使用例から -ko issta の使用が確認された。

また、-ko issta や -e issta などを使用しない文脈における誤用は、まず、状態動詞や状態を表す慣用表現、その他に日本語の動詞が韓国語では形容詞となる場合など、意味や品詞的に状態を表す動詞(形容詞)がある。該当する動詞に限られているうえ、動詞や文脈によって非過去形に訂正されるべき場合と過去形に訂正されるべき場合があるので、難解な項目である。

このような誤用については、韓国語母語話者の使用傾向を確認したうえで、韓国語のテキストや韓国語学習者の産出する表現からより多くの該当例を集め、その結果を如何に韓国語の学習内容に反映できるかについて検証する必要がある。

最後に、韓国語学習の初期に導入されることの多い -ko issta に比べて、-e issta の導入や学習内容は相対的に乏しいように見られる。これについては、大学などの高等教育機関で行われている韓国語教育において、当該文法項目がどの段階で学習されるか、あるいは学習され

ないか、実態調査が必要であり、さらに調査を進める予定である。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費基盤研究 C (課題番号 :21K00539) の助成を受けて行われた。

注

- 1) 韓国語のローマ字表記はイェール式に従っている。以降、同様。
- 2) 例 (1) は、白寅英・山田佳子・宋美玲・印省熙 (2016) の誤用例から、該当する部分だけを抜粋して引用している。下線、矢印による訂正の表記、日本語訳は筆者による。例 (2) は印 (2016) から抜粋引用しており、例 (1) と同様の編集を施している。
- 3) 訂正される箇所を太文字にしている。なお、引用した例文の下線やローマ字表記、日本語訳は筆者による。以降、同様。
- 4) 異形態として -a issta/-hay issta を持つが、便宜上、-e issta を代表形態とする。
- 5) 異形態として -assta/-hayssta を持つが、便宜上、-essta を代表形態とする。
- 6) 異形態として -nta を持つが、便宜上、-nunta を代表形態とする。
- 7) 連結語尾「ko」と「e」は、日本語のテ形に当たる成分であるが、その意味機能が類似していることから、韓国語学習において特に注意が必要である。日本語母語話者から見られる誤用と効果的な学習展開について、金 (2022) で取り上げている。
- 8) 日本語の文脈におけるいわゆる動作パーフェクトの用法は、韓国語では基本的に過去形で表される。ただ、金美仙 (2013) には、-ko issta が動作パーフェクトを表す例が見られ、次に記しておくことにする。
「のちに吟子はその時の心境を『女学雑誌』三百五十四号に次のように記している。
훗날 긴코는 그때의 심경을『여학잡지』 354 호에 다음과 같이 적고 있다 .」
- 9) 本稿の資料提供者となった韓国語学習者の場合、1 年次の後期に -ko issta が<動作の進行>と<動作の完了後の状態>を表すものとして導入されている。

文献

- 庵功雄 (2018) 「意味領域から考える日本語のテンス・アスペクト体系の記述：「母語の知識を活かした日本語教育」のために」言語文化 55. 3-18
- 李在鉉 (2019) 「韓国語を母語とする日本語学習者の結果状態場面における「-タ」形と「-テイル」形の選択傾向—日本語の「-テイル」形と韓国語の「-e issta」形の使用基準の違いに着目して」日本語 / 日本語教育研究 10. 53-67
- 印省熙 (2016) 「韓国語上級クラスの二つの作文資料による誤用分析の試み 1」、『朝鮮語教育—理論と実践—』第 11 号、朝鮮語教育学会、4-24
- 生越直樹 (1995) 「朝鮮語했다形、해 있다形 (하고 있다形) と日本語シタ形、シテイル形」

研究報告集 16. 185-206

- 生越直樹 (1997) 「朝鮮語と日本語の過去形の使い方について—結果状態形との関係を中心に—」『日本語と朝鮮語 下巻 研究論文編』国立国語研究所 くろしお出版
- 金智英 (2022) 「日本語母語話者における韓国語の連結語尾「고 (ko)」と「서 (se)」の学習について」神戸松蔭女子学院大学研究紀要 3. 1-20
- 金美仙 (2013) 「日本語の<シテイル・シテイタ>に表される「出来事の継続」と「動作パーフェクト」に対応する韓国語のアスペクト的表現」朝鮮語研究 5. 189-227
- 高恩淑 (2019) 「日本語と韓国語のテンス・アスペクト形式について」『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 1』田川拓海・庵功雄 (編) ひつじ書房
- 菅谷奈津恵 (2002) 「第二言語としての日本語のアスペクト習得研究概観—「動作の持続」と「結果の状態」のテイルを中心に—」言語文化と日本語教育 特集号 . 70-86
- 孫猛・小泉政利・玉岡賀津雄・宮岡弥生 (2010) 「第二言語としての「テイル」の習得における語彙・文法能力の役割」東北大学言語学論集 19. 47-59
- 浜之上幸・高地朋成・崔昌玉 (2021) 『韓国語学研究』三修社
- 白寅英・山田佳子・宋美玲・印省熙 (2016) 「韓国語中級学習者の作文における誤用分析 1—非専攻者の場合—」マテシス・ウニウエルサリス 第 18 卷 第 2 号 . 73-97
- 山口薫 (2013) 「外国人留学生の作文に現れるテンス・アスペクト形式の分析」南山大学国際教育センター紀要 14. 25-39

引用辞典

『日本語文法事典』日本語文法学会 大修館書店

引用検索ウェブサイト

언어정보연구원 「연세 20 세기 한국어 말뭉치」, 연세 말뭉치 용례 검색 시스템,
<https://ilis.yonsei.ac.kr/corpus/#/search/TW>, 検索日 2022 年 11 月 20
(言語情報研究院「延世 20 世紀韓国語コーパス」延世コーパス用例検索システム)

(受付日 : 2022. 12. 10)